

2015年度の総括

①収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	165,052	98.8	↑
支出	164,478	99.7	
経常収支差額	574	28.7	

評価：入居は空床が出てから入居に至るまでに、二週間掛かってしまい、収入減となった。その背景は、①他機関の利用者減も関係し、空床を埋めるのに時間が掛かり、入居が遅れる。②家族の想いとして入居までに気持ちの整理が必要であり、入居が遅れる。が挙げられる。短期入所については週末に利用が重なり、他サービスを利用されている方への平日のニーズが少ないことが挙げられる。ただ入居は31床分の活用でほぼ予算達成となる。他方短期は86%の達成率となった



②職員配置と研修（職員数は2016年2月現在）

退職者が非常に多く見られた年度であった。常勤職員（介護6名・看護2名）が退職となった。退職の背景には、①身体面・精神面の負担 ②家庭の事情による転居 ③新しい事業所で一から介護を見つめ直したい。等挙げられる。中堅職員（3年以上）の退職が多く、今後の課題としては人材育成が挙げられる。経験の少ない、入居者、家族との関係性も浅い職員が多い中で、ケアの質向上・信頼関係作りの土台を固め、そして働きがいのある魅力ある職場作りを目指していきたい。研修では、「特養内での実践報告会」等も実施し、自身の考えた実践を伝えるという面にも着目できたと感じる。今後は、役割を設け、研修会実施を行っていく予定である。

③事業内容

「生活を本人にもってもらおう・かえしていく」を目的として一年取り組みを実施したが、不完全燃焼に終わった。原因は年度始めの研修だけで、中間での振り返る機会などを設けず、そのままになっていた指導側の問題と捉えている。しかし職員によって入居者さんの個別を意識した実践も含め、部署内として「一人ひとりの個別ケア」という事では少しずつでは深まっているように感じる。他部署が検食を食べに来られる事で、特養に来る・入居者さんを知るというキッカケにはなった。

④品質管理

新しい職員が入職される事により、職員の指導体制作りが不明確であった為、介護技術だけでなく、コミュニケーション等に関して課題に残る。（今後としては、全く経験のない職員には、介助を先に覚えるのではなく、まずは入居者さんと会話をし、人と関わる事が楽しい！と思える人材育成・指導体制作りをしていく。）人として、社会人として、福祉専門職としての人材を育てていく。

2016年度の計画

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	167,400	↑	31床稼働を継続し、短期入所の新規拡大及び長期の利用が4床では利用できない為、定期利用で稼働向上を図る。 入居31床→100%・短期入所4床→100%で稼働と考える。 入居:152,400千円 短期入居:15,000千円
支出	159,370	⇒	前年度同様に、非常勤職員の雇用をし、派遣職員の活用を最小限にしていく。 10年以上使用の家具・電化製品の修理,入れ替えが予測される。 また福祉用具(車いす、ベッド、介助負担の福祉機器等)

② 主課題 「再出発～その先に見える笑顔に向けて！！」

2016年度は、職員体制の大幅な変更(ユニットリーダー、副主任など、勤務継続年数が3年未満の職員が大半となる)となる為、新たなスタートの年であると考えている。

その中で、主となる課題は「人財育成」である。人材においては「新人職員」だけでなく、「中堅職員」も含むすべての職員が対象となる。

指導方法としては、メンター制度を検討する。

メンター(指導する側)・メンティー(指導される側)のマンツーマン対応とし、悩み等を相談できる環境を作り、お互いが信頼関係を築けられるような新人教育を目指していく。

またメンター側にも、副主任・主任をメンターとし、ダブルメンター制度と称して、特養なごみ全体での共育(ともに育つを目的として)をおこなっていく。

大幅な職員体制の変更に伴い、まずは主となる「人財育成」を実施し、人として、福祉専門職として入居者さんと共に喜び、時には悲しみも分かち合い、「人と関わることの楽しさ」を見出し、その先に見える「笑顔」に向けて、入居者さんだけでなく、職員も過ごしやすい、そして働きやすい環境を作っていくことを目的として掲げる。

③ 年間事業計画(予定)

4月	お花見・造幣局の通り抜け(他部署合同)	10月	運動会
5月	母の日	11月	バイキング・作品展&バザー
6月	父の日・住吉大社お田植え祭	12月	クリスマス
7月	花火大会	1月	新年会
8月	納涼祭・盆踊り	2月	節分
9月	敬老会	3月	ふらっと楽しむ住吉
その他行事⇒ユニット・個別・外出企画の充実・イベント食・日曜ワイワイ・クラブ活動など			
研修⇒新人研修・法人研修・部門内研修など			
外部研修⇒認知症介護実践者研修・ユニットケア全国実践者セミナー・宅老連研修・ユニットR研修など			